

横浜市インフルエンザ流行情報 7号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

ピークを越えましたが、流行は継続しています。

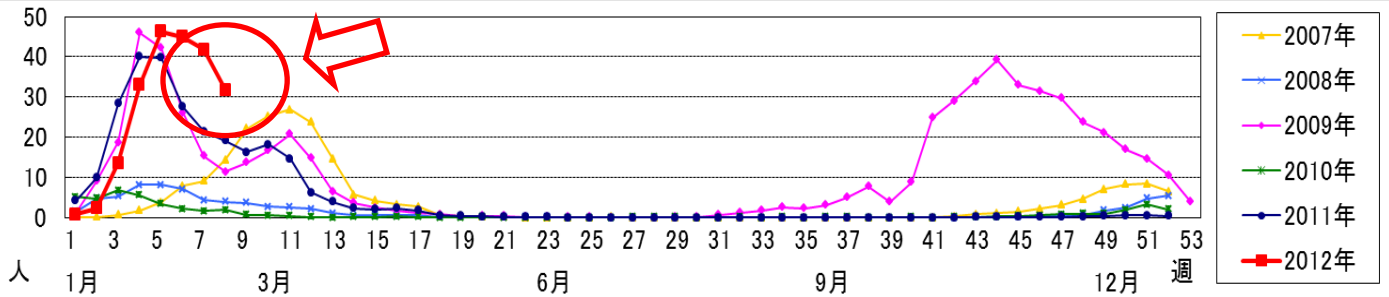
【概況】

第8週(2月20日～2月26日)に定点^{※1}あたり31.80となり、流行ピークの第5週46.26から減少しました。ただ、依然として高い流行状態が継続しているため、引き続き注意が必要です。迅速キットの結果では、A型は減少し、B型が増加しています。A型に感染した人でもB型に感染する恐れがあり、予防対策を引き続き徹底^{※2}しましょう。喘息や糖尿病などの持病のある人は、インフルエンザに罹ると重症化する恐れがあります。普段と違う症状などがある時は、早めに主治医と相談しましょう。

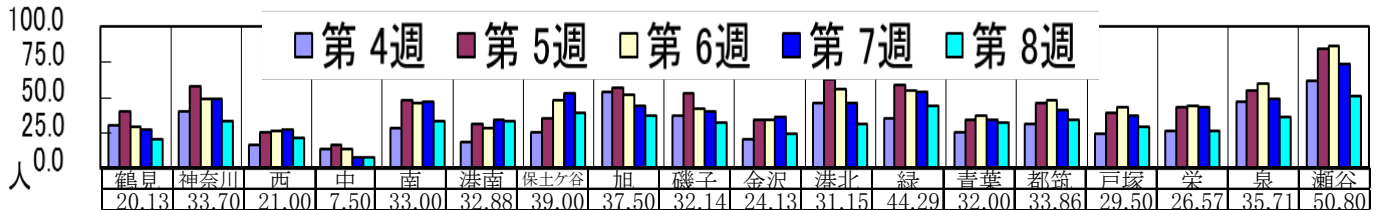
※1 定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

※2 インフルエンザ予防チラシ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/pdf/infulchirasi.pdf>

1 市内流行状況: 流行ピークの第5週46.26以来3週連続で40.00を超えていましたが、第8週に31.80と減少し、流行のピークは越えたものと思われます。



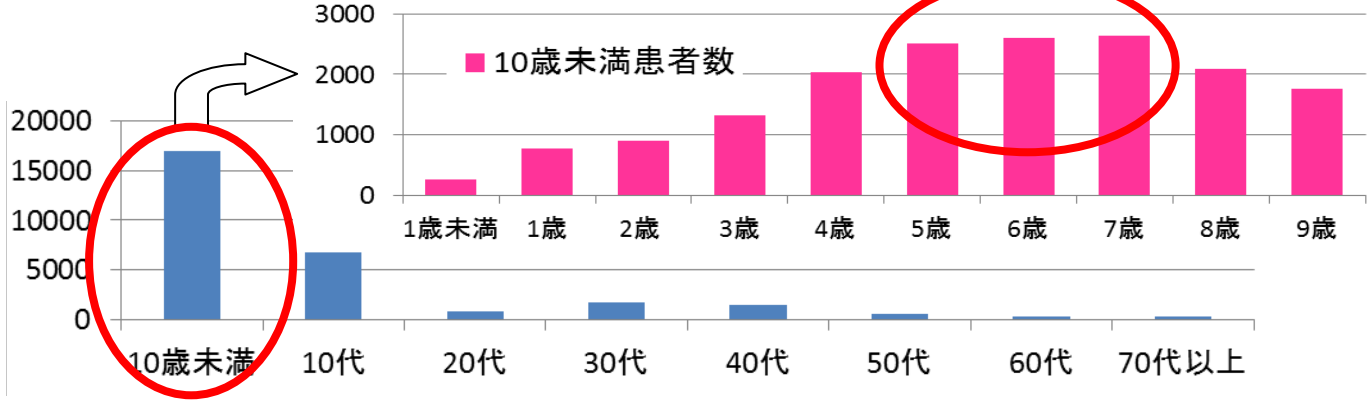
2 区別流行状況: 最も多い区は瀬谷区50.80で、次に緑区44.29となっており、依然流行が続いていますが、多くの区で減少傾向です。



3 市内学級閉鎖等状況: 第6週をピークに減少傾向です。第8週の施設種別では多い順に、小学校58件、幼稚園15件、中学校3件、高校3件です。引き続き各区から報告が来ています。

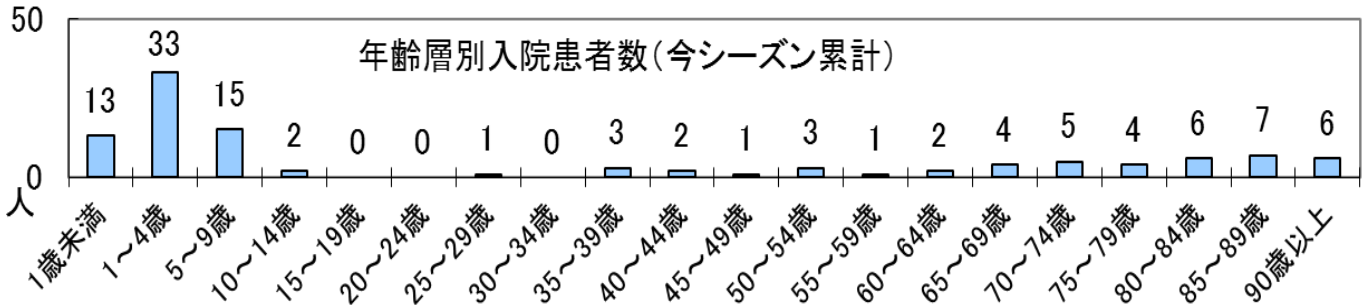


4 年齢層別集計:第4週から第8週までの直近5週間の累計では、今までの傾向と同様に10歳未満の患者が最も多く、その内訳では5~7歳で多くなっていました。

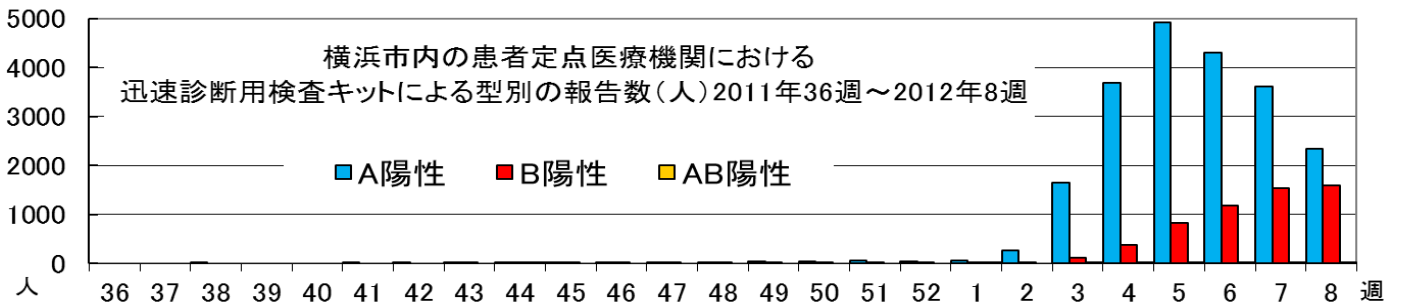


5 入院サーベランス:市内基幹定点^{※3}医療機関における、インフルエンザの年齢層別入院患者数の集計です。10歳未満の入院が多く、次に65歳以上も多くなっています。

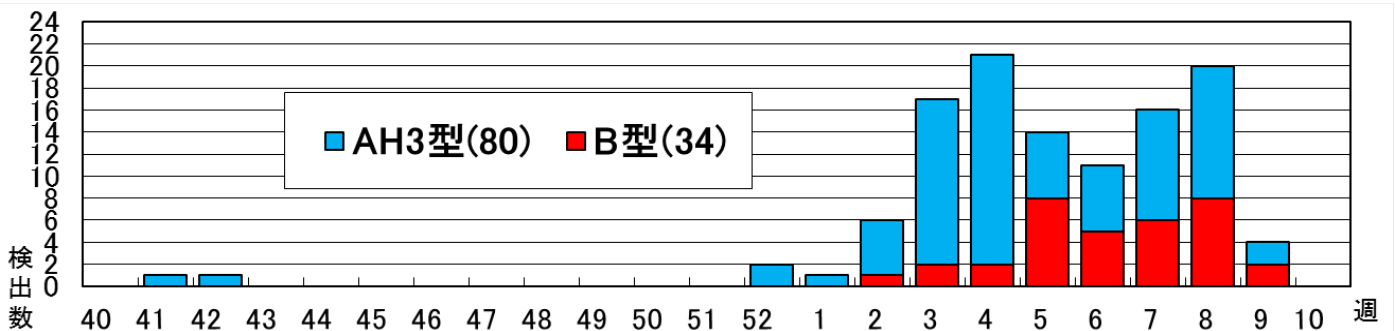
※3 基幹定点:基幹定点とは、患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には3つの基幹定点があります。



6 迅速キット結果: A型が減少する一方、B型が増加し、迅速キットで判定されたうち、第8週では40.5%がB型となっています。



7 病原体検出状況:市内定点医療機関から144件検出されましたが、AH3型80件(70.2%)、B型34件(29.8%)でした。



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9816
 同 検査研究課ウイルス担当 TEL 045(754)9804